

この度、JECKの理事長に推薦されました佐藤でございます。

JECK(JICA帰国専門家連絡会かながわ)も初代、中之蘆代表・2代菊池理事長と続いた後を受けて緒先輩方の活躍を引き継ぎながら、更に新しい時代のJECKの道を切り開いて行きたいと思っております。すでに我がJECKも10年になんなんとする歴史を持つ団体となりました。この間世の趨勢も大分変わってきています。情報公開の問題も大変難しくなっている今日、現在のJECKの最大の課題は我々より若い世代の帰国専門家にJECKを引き継いでもらうのが一番なのですが思うようにはならない現状があります。そして専門家のみでは時代に遅れをとるのではという危機感もあり、より広範囲に、海外青年協力隊やシニアボランティアの人々とも交流を深める試みもなされ、ある程度の実績も出来て参りました。

また、海外経験の有無を問わず、海外に興味のある一般の方も入会できるように賛助会員制度も取り入れ、より広く大きな範囲の活動分野を目指してきました。

これからは、JICA横浜への協力、支援を軸としながらも、新しい人の入会に努力しながら会員の行った様々な国の現状や将来の展望を横浜の方々にお知らせして、その国をより一層理解し親しくなっていたきたいと願っております。

そしてJECKのもう一つの組織「NPO法人ジェックアソシエイツ」の活動も「JICA草の根プロジェクト」として、本格的に動き出しています。

県民一人一人の方に「開かれたJECK」の仕事を知ってもらえるよう、会員の皆様にはより具体的な参加を改めてお願いして就任のご挨拶と致します。

JICAとの関わり&中之蘆君との出会い

大久保 卓次(JECK事務局長)

この4月、定年を機にJECK事務局長をお引き受けしました。会報第10、11号「任国あんなこと!こんなこと!」の投稿のように私の専門家体験ははるか昔のことで、現在の専門家の業務内容とは大分様子が変わっていることと思いますが、私のJICAとのきっかけについて書いてみたいと思います。

昭和52年、私の上司がケニアへ地方水道整備計画の短期専門家として派遣されました。その仕事が完了し、翌年には長期専門家を派遣する話が持ち上がりましたが、当時、私の妻は長男を出産したばかりで、アフリカとの縁もこれで終わりかとあきらめていました。

ところが、翌54年、厚生省(当時)が水道及び廃棄物分野の専門家養成コース(環境衛生コース)を立ち上げたのです。これを逃してはと躊躇せず飛び込みました。

研修初日、JICA研修所に社会開発、農林業等各分野の研修生が70数名集結しました。大きな部屋の壁際に全員がずらーっと並んでいます。皆英語をしゃべりそうな顔をしていて、英会話学校に通ったこともなし、新婚旅行も英語が面倒だからと国内旅行であった私にとってとんでもないところへ来てしまったと後悔の念にかられました。まだ残暑の厳しい9月の中頃で、大勢の中で上着を着けず半袖シャツにネクタイ姿が私の他にもう一人いました。それが中之蘆君との初めての出会いでありました。環境衛生コースには水道3名、廃棄物2名が参加し、75日間の研修、特に英語に悪戦苦闘したことを今でも思い出します。

私の場合は、翌年(昭和55年)に前任者の後任として、中之蘆君の場合もその数年後同じくケニア水資源省への長期専門家派遣が決まり、厚生省環境衛生コース第1期生としての勤めは果たしたものと思えます。

その後、専門家としての派遣の機会には恵まれませんでしたが、横浜市水道局の国際協力活動に色々な面で参加させてもらったり、JICAの水道技術グループ研修の講師を昨年まで19年間勤めさせてもらったりと、国際協力をライフワークとして国内派の技術協力に携わってきました。

JECKの活動がより実のなるものとなるよう、おらかな気持ちで取り組んでいきたいと思っています。御協力お願いいたします。